

一般質問

やまざき こうじ
山崎 公司 議員



質問の
ねらい

人口減少の影響と対策

①北海道医療大学が令和10年4月に北広島市へ移転すると発表されてから2年が経過する。移転後の地域活性化や人口維持の戦略が求められる中、学生・教職員・子どもを合わせて千名超が減少する見込み。現

段階での具体的対策を問う。

②「北海道バレー構想」は半導体やデータセンターなど先端技術産業を集積する国家的プロジェクト。このような状況で、今後の当別町の役割と可能性について質す。

ここが
聞きたい

過大な経済損失

問 北海道医療大学移転後、町内の人口はどのように推計されるか。また、人口面・経済面で非常に大きな影響が懸念されるが経済損失額年間20億円の公表に現時点で見直しや変化はあるか。

答 現在改訂作業を進めている人口ビジョン改定で推計する。目標人口は次の総合計画の中で設定する。大学移転の事実に変更がない以上、経済損失額、影響額に大きな変化はないと考える。

ここが
聞きたい

税収・上下水道料金の減収

問 税収や上下水道料金の減少への影響はどの程度想定しているか。また、経済損失を最小限にするための対策は。

答 大学関係者の転出で数名分の住民税の減収は見

込まれるが、大学施設が固定資産税非課税のため税収に大きな影響はない。上下水道料金の減収は見込むが、特定の方の情報について回答できない。引越応援事業などの対策を既に実施中。今後も影響の把握に努めていく。

ここが
聞きたい

今後の公共交通の行方

問 大学移転によりJR利用者が1日2800人ほど減少すると予想され、町内公共交通の見直しが急務となる。現状、どのように進行しているか。

答 これまでの定例会での議論も踏まえ、引き続き町民のニーズを的確に把握し、利用しやすい持続可能な地域公共交通の構築を目指していく。

ここが
聞きたい

バレー構想 町の役割は

問 北海道医療大学跡地について、人材育成や教育連携の拠点として技術者育成や研究連携の可能性はあるか。また、北海道バレー構想に関連し、当別町が果たすべき役割とは何か伺いたい。

答 農業、人材育成、研究開発などの拠点役割を想定している。大学跡地の活用についても、企業や学校誘致を含む可能性を検討中であり、引き続き大学との協議を進めていく。



住宅購入支援金は新築・建売・中古住宅が対象です

ここが
聞きたい

今後の移住増加対策

問 子育て世代の移住促進を図るため住宅購入支援金の増額や西当別地区で大規模な住宅分譲地を展開する施策を検討しては。

答 住宅購入支援金は中古住宅を対象に追加し、一

定の効果を発揮している。まずは認知度の向上を図るため、町の魅力を積極的に発信していく。住宅供給は、太美駅周辺の既存宅地を優先した住宅建築に取り組み、民間事業者による宅地開発について調査研究を進める。

一般質問

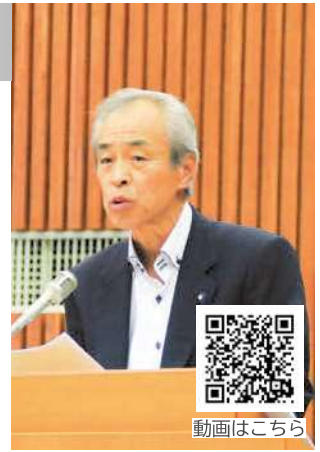
よしかた ゆき お
芳形 幸夫 議員

質問の
ねらい

農業・補聴器・非核平和を訴える

①交付金制度の見直しや価格変動を受け、経営体、人材、雇用形態、農地規模や集積の在り方、作物構成など当別町農業の将来像を質す。②軽度・中等度の難聴者は補装具費支給の対象外。補聴器購入時には医

療費控除のみで自己負担を余儀なくされるため、町独自の助成の必要性を質す。③戦後80年を迎え、全国で未宣言自治体は残り約7%となる中、町として核を否定し平和の意思を示す必要性について改めて質す。



動画はこちら



秋の風景

ここが
聞きたい

当別町農業の将来像

問 米価上昇、麦や大豆価格下落、担い手減少など厳しい状況の中、当別町農業の将来像をどのように描いているか。農業経営の安定化、人材育成、農地規模、作物の選定について町長の考えは。

答 交付金に頼らない諸かる農業を目指し、第2期10年ビジョンを策定。スマート農業、法人化、6次産業化を重点施策として推進する。若者が農業の魅力を感じられるよう農業団体と連携して進める。

ここが
聞きたい

補聴器購入に町独自の支援

問 補聴器購入が生活の質向上や認知症予防に効果をもたらすとの認識はあるか。また、軽度・中等度難聴者への補聴器助成や難聴の状況把握を目的としたアンケート実施の可能性について伺う。

答 認識している。加齢性難聴者への助成は国が行うべきと考えるが、来年度の高齢者保健福祉計画の策定に向け加齢性難聴の実態調査を行い状況を把握するほか、引き続き国などの動向を注視する。



耳かけ型補聴器



幸せを運ぶと言われているスウェーデンの木馬 ダーラHEST

ここが
聞きたい

非核平和都市宣言の実施を

問 非核平和都市宣言を見送る理由として「多様化」とあるが、その具体的な内容を伺う。また、戦後80年の節目を迎える中で、非核平和都市宣言を行う意向について町長の考えを伺いたい。

答 平和な地域を願う前提のもと、考え方も多様化している。宣言の実施には町民の総意と議会の歩調を合わせる必要がある。節目を迎えても、その判断は町民や議会と相談を重ねた上で行う。



一般質問

い が ら し の が こ
五十嵐 信子 議員

質問の
ねらい

安心して暮らせる町をめざして

高齢化や地域の変化に伴い、最期まで安心して暮らせる体制づくりや、町内会など地域コミュニティの負担軽減が課題となっている。

住民の思いや声を大切にしながら、
看取り支援を含めた地域包括ケアシ

システムの強化や、町内会等のデジタル化を進めることで、住民一人一人が支え合いながら暮らせる持続可能な町づくりを目指す考えを質した。

ここが聞きたい

看取り支援の仕組み

問 専門職だけでなく地域ボランティアとも連携し、在宅や施設での看取りを支える仕組みを構築する考えはあるか。また、看取り支援に向けた検討や研究の進捗状況について伺う。

答

答 看取りは倫理観や価値観の多様性、精神的負担など多くの課題があり町主体で行うのは困難。在宅医療や終末期ケアの重要性を啓発すべく、広報で特集記事掲載など町民の理解促進に努めている。

ここが聞きたい

看取りサポーター育成

答

答 活動の性質や、人材確保などの課題があるため、実施は難しい。終末期ケアの充実を図るため、地域包括支援センターを中心とした在宅医療・介護体制の強化を推進していく。

問 共生型ボランティア養成講座を通じ、町民が活動できる「看取りサポーター」の育成を進める計画はあるか。あわせて、町が目指す終末期ケアの具体的な体制について伺う。

ここが聞きたい

地域コミュニティ支援

問

問 町内会は地域の安心・安全を支える重要な存在。役員の高齢化や担い手不足が課題となる中、町は地域コミュニティの弱体化をどのように認識し、維持のためどのような支援が必要と考えるか。

答

答 町内会では役員の高齢化や担い手不足の課題を抱えつつ活動していると認識している。町内会は地域の基盤を守る重要な組織であり、今後も自主的な活動に寄り添いながら支えていく。

令和6年度
当別町共生型ボランティア
養成講座

町内在住の方

[illegible]

昨年度の共生型ボランティア養成講座チラシ

ここが聞きたい

回覧板のデジタル化

問 広報誌は、ホームページや町のLINEで閲覧可能。回覧板も効率化のためスマートフォンで閲覧可能な電子回覧板を導入し、紙との併用を進める考えはあるか。

答

答 行政依頼の回覧は既に廃止し、広報誌やSNSで情報提供中。電子回覧板は有効と認識するが、利用が難しい町民への配慮も必要。希望する町内会には助言や支援を検討し対応していく。



問 町内会が負担を感じるだけでなく、楽しく安心できる場となり、やりがいや芽生える存在となるために、町は具体的にどのような取り組みや支援を進める考えか伺う。

答

答 各町内会が地域の実情や特性を活かしながら活動を継続・発展させることが望ましいと考える。若者や町内会等と意見交換を行い、必要な支援や取り組みを探求していく。

一般質問

かくた ひろすけ
角田 広佑 議員

質問の
ねらい

鳥獣管理保護法改正における対応

クマの目撃情報や人的・物的被害がここ数年来急増しているなか、令和7年9月より鳥獣管理保護法が改正された。これにより所轄警察所長許可による発砲を含む駆除（緊急銃猟）が、市町村長の許可で可能となっ

た。しかしその判断は重大かつ慎重、時には迅速な判断、対応が求められる場合も想定される。過去の対応を含め、町の方針を質す。

町長の所信表明演説にて示された建設時期と規模について質す。



動画はこちら

ここが
聞きたい

町内のヒグマ目撃数と対応

問

町内における昨今のヒグマの目撃情報の数と目撃された場所は。またそれらに対しどのような対応を行ったか。

答

令和4年度は5件、5年度は20件、6年度は2件、

本年度は3件の目撃があり、主に青山や茂平沢など山間部で発生が多い。関係機関と情報共有し、看板設置やSNSでの注意喚起、必要に応じ、箱わなの設置や巡回を実施。住民に危害が及ぶ可能性があれば駆除を実施。

ここが
聞きたい

銃猟の指揮命令体制整備

問

今回の法改正に伴い、ヒグマ出没時に市町村長が判断する緊急銃猟の手順や指揮命令体制は整備されているか。現状の進捗について伺う。

答

町では、国のガイドラインに基づき対応する方針で、現在、町の状況に適した体制構築とマニュアル策定に向けて関係機関と協議を進めている。

ここが
聞きたい

緊急銃猟想定訓練の実施

問

全国各地でクマの出現を想定した訓練が実施されている。市町村、所管警察署、振興局が連携し、役割分担を確認する訓練が重要であるが、町における訓練計画はあるか。

答

現在、警察とも訓練実施に向けた打ち合わせを行っており、具体的な訓練実施に向け、調整を進めていく。関係機関と綿密に連携を取りながら、住民の命を守る取り組みを徹底していく。

ここが
聞きたい

駆除に伴う苦情への対応

問

併せて、クマ駆除における苦情についても昨今の大きな課題。担当職員の職務の停滞や精神的なダメージ、さらには離職につながりかねない。町としての対応について伺う。

答

令和4年の駆除時には道内外から多数の苦情や抗議が寄せられ、職員の負担が増加した。理不尽な言動や過度な電話対応が発生した際には、カスタマーハラスメント対策に基づき適切に対応する。

ここが
聞きたい

新庁舎の建設時期と規模

問

町長は所信表明で、新庁舎の新築を含む方針を1年以内に決定すると明言した。現庁舎の老朽化や職員負担への対策が急務である。正式な決断時期と、新庁舎の建設規模について伺う。

答

建設時期は基本構想が固まるまで明言できないが、早急な建設が必要である。規模は、行政サービス維持に必要な職員が円滑に業務を遂行できる面積を確保することが重要である。

今日

【ヒグマ関連情報】10月21日（火）15時30分頃、当別町 付近にてヒグマの親子らしきものを目撃したとの情報がありました。付近を通行される場合は注意し、ヒグマを目撃した場合は町または札幌方面北警察署（電話番号 011-727-0110）にご連絡ください。

町公式ホームページ ヒグマ目撃情報
<https://www.town.tobetsu.hokkaido.jp/soshiki/kankyoe/49533.html>

17:06

ヒグマ目撃情報（町公式 LINE より）